

カマドの神への儀式の跡か

—滝沢遺跡（富士河口湖町）—

今年の5月から発掘調査を行っている富士河口湖町の滝沢遺跡では、平安時代（9世紀末～10世紀頃）の竪穴住居跡が14軒発見されています。

平安時代の竪穴住居には、壁際に石を芯にして粘土で築いたカマドが見られます。火は人に様々な恩恵を与える一方で、災いをももたらすもので、昔からカマドなどの火を扱う場所には神様が存在し、粗末に扱うと人々に災いをもたらすと信じられていたようです。

滝沢遺跡で発見された竪穴住居跡からも、カマドの神様に対する儀式が行われた痕跡が見られました。滝沢遺跡1区2号住居跡のカマドは、北側の壁に接して設けられていましたが、その構築材として、遺跡の周辺には通常見られない溶岩のブロックが用いられていました。遺跡周辺にある石は、熱を受けると割れやすく、耐久性がないため、わざわざ溶岩を運んできて使ったようです。

カマドの左脇から、墨で「本人」（本は本の別字）と書かれた土師器の皿が2点、出土しました。今のところ、書かれた文字の意味はわかりませんが、カマドが使われなくなったことを神様に伝えるための儀式が行われたのではないかと考えられます。



「本人」の文字のある墨書土器

こうしたカマドに関する儀式の例は、県内外の平安時代の住居跡に多く見られ、当時の人々が、カマドを神聖な場所としてとらえていたらしいということが、ひろく考えられるようになってきています。

現代の台所では、カマドの代わりに、ガス式や電気式のコンロが使われていますが、火を大切にするということは、古今を通じて共通のことではないでしょうか。いま台所の神様を信じる人はあまりいませんが、きれいに使い、火事にならないようにしたいですね。



1区2号住居跡（左下は墨書土器の出土状況）

出前支援事業

今年度もセンターでは、小・中・高等学校の体験型授業を支援する「出前支援事業」を行っています。

4月から小学校4校、高等学校1校へ職員が出向き、授業支援をしました。次にその内容を紹介します。

◇土器作り（甲府市立湯田小学校・南部町立睦合小学校）

児童は、古代に思いをはせながら粘土をこね、粘土紐を輪積みして形を作り、施文をしていきました。乾燥後に野焼きで焼き上げ、出来上がった土器を火床から取り出した時は嬉しそうな表情が見られました。

◇火起こし体験（笛吹市立一宮西小学校・湯田小学校・睦合小学校）

実際に舞割りや火打石などで火起こし体験をしました。マッチやライターのように容易に火は起こせず、昔の火起こしの苦勞を身を持って体験できました。

◇縄文・弥生時代の話（一宮西小学校・山梨県立塩山高等学校）

一宮西小では、縄文・弥生時代や発掘した遺跡について普段の授業では聞けない話に、児童はみな聞き入っていました。児童は本物の土器や石器に触れ、質問も多く出て活発な授業になりました。

塩山高校では、総合的な学習の時間「地域を知る」で、山梨の文化財について話をし、生徒の文化財や地域への関心も高くなったようです。

◇弥生時代の米作り体験（甲府市立相川小学校）

相川小では、当時の技術で米作り体験をしたいとの希望があり、田植えをしました。収穫はどうだったでしょうか。



集中して土器づくり（湯田小）



2人で協力、紐ぎりで挑戦中（睦合小）



本物の土器を間近に観察（一宮西小）

先生のための文化財支援講座

平成17年8月2・9日に県内の小・中・高の教員等10名が参加し、センターの収蔵品を授業に有効活用することを目的として、また、資料を運搬・使用する資格も取得できる講座を行いました。

講座では収蔵資料を安全かつ効果的に活用するために、考古資料の特性や取り扱い（梱包・運搬）についての研修や土器・石器作り等を行いました。次回開催は来年度夏期を予定しています。多くの先生方に参加していただき、収蔵資料が一層活用をされることを期待しています。



考古資料の説明



土器焼き



認定書授与式

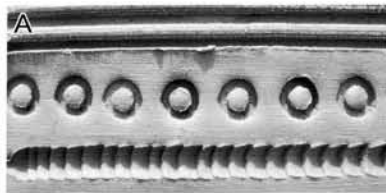
出前支援事業のご案内

支援対象は小・中・高校生とし、クラス単位で受け付けます。内容は土器作り、石器作り、火起こし体験などを基本としますが、授業内容やご要望に応じてその他も対応可能です。1～2日程度、職員を派遣し学校での体験型授業をサポート（解説・実技指導など）します。

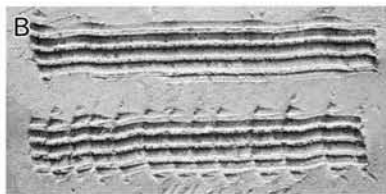
（*詳細はHPをご覧ください。HPアドレスは表紙にあります。）

縄文土器文様の正体（施文具）を探せ！

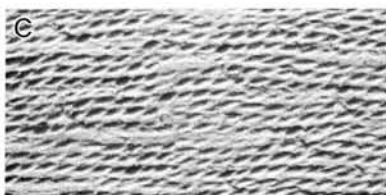
土器に文様を付けることを施文せもんと言います。縄文時代の人々は様々な道具・方法を組み合わせて施文をし、多種多様な文様を表現しました。ここでは、縄文土器によくみかけられる文様と出前支援事業の土器作りでも使っている施文具の一部を紹介します。左の文様と文様の説明文、そして右のどの施文具で施されたものか探してみましよう。（答えは4ページ目を見てね。）



1 縄文 縄を転がしてつけた文様です。縄文は数百もの種類があります。撚りの方向や撚りの回数、結び目を付けたりと変化を加えることで様々な効果を生み出しています。



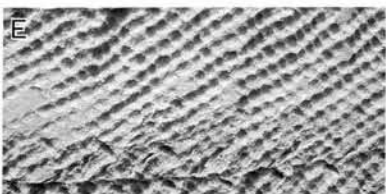
2 撚糸文 棒に撚糸を巻き付けたものを転がした文様です。編み目・木目・すだれのような文様もできます。山梨では、縄文時代中期にもよく見られます。



3 竹管文 篠竹などの管状のものを使ってつけた文様です。爪形、円形、平行と様々な文様ができます。縦割りにした半截（はんさい）竹管が多く使われました。山梨では、縄文よりもバラエティーが多くあります。



4 貝殻文 サルボウやアカガイなど殻に放射状の筋が付いた二枚貝や、ヘナタリなどの巻き貝など様々な貝殻を用いて付けた文様です。殻表や腹縁を押し当てたり、引きずったり、巻き貝は回転させてみたりと、貝は食用だけでなく、施文にも使われました。



5 押型文 文様を彫刻した木の丸棒を押しつけながら転がしてつけた文様です。縄文時代早期・前期に出でくる山梨周辺ではよくみられるものです。



さあ、みなさんも縄文土器を作ってみませんか？あなたのセンスによって文様の種類は無量大です。



会場のようなす

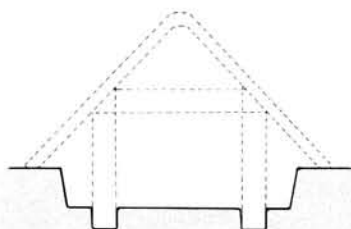
今年度上半期遺跡調査発表会を開催しました

10月1日に風土記の丘研修センター講堂で山梨県考古学協会と共催しました。発表遺跡は、坂井遺跡（韮崎市）、大蔵経寺前遺跡（笛吹市）、武田氏館跡（甲府市）、向山遺跡（北杜市）、鯉沢河岸跡（鯉沢町）でした。約100名の参加があり、担当者からの報告を熱心に聞いていただき、発表後は踏み込んだ質問もかわされました。

（*詳細はHPをご覧ください。）

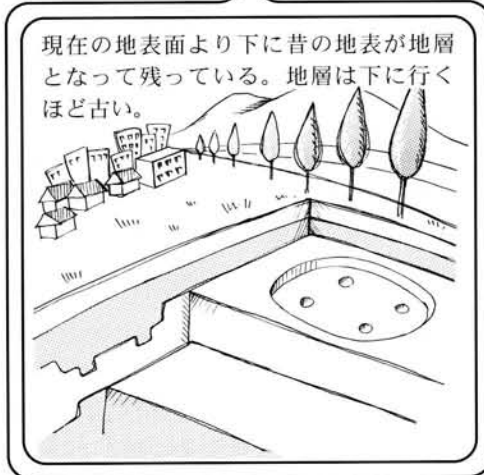
特集 遺跡ってどうやって掘るの？ —住居跡編—

4. 住居跡完掘。

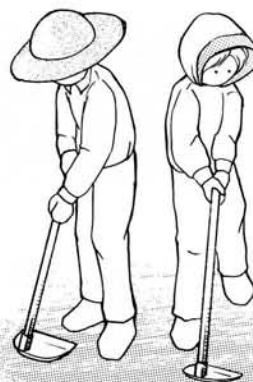


1. 表面の土を取り除く。土の層が厚い場合は重機をつかうことが多い。

3. 住居跡部分を、移植ゴテなどで少しずつ掘り下げる。



現在の地表面より下に昔の地表が地層となっていて残っている。地層は下に行くほど古い。



横から見てみると…

2. ジョレンをかけ地面を平らに掘り下げると、遺構部分が土の色の違いとして現れる。
(赤土の中に黒土(腐植土)が入っているのが典型的。)

最近の発掘調査情報

〔凡例〕 a 遺跡名(所在地) b 時代 c 発掘調査予定期間



1. a 甲府城下町(甲府市) b 中世・近世 c 平成17年8月～12月
2. a 小井川・小河原遺跡(田富町) b 中世後半～江戸後期 c 平成17年6月～11月
3. a 足原田遺跡(山梨市) b 古墳前期・平安後期 c 平成17年5月～9月
4. a 滝沢遺跡(富士河口湖町) b 平安 c 平成17年5月～10月
5. a 天正寺遺跡(都留市) b 縄文・中世 c 平成17年7月～10月
6. a 鰻沢河岸跡(鰻沢町) b 江戸～近世 c 平成17年5月～10月

クイズの答え：A-3-b B-4-a C-2-e D-5-d E-1-c

編集後記

秋も深まり、徐々に冬へ近づいています。

今号では、滝沢遺跡の調査成果をはじめ、出前支援事業に関する特集をご紹介します。資料普及活動も今後、一層活発になるよう努力してまいります。皆様からの多くのご意見・ご感想をお待ちしております。

(編集担当)

山梨県埋蔵文化財センター

埋文やまなし 第22号

発行日 2005(平成17)年11月1日

編集発行 山梨県埋蔵文化財センター

〒400-1508 山梨県東八代郡中道町下曾根923

TEL055-266-3016 FAX055-266-3882

maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp

印刷 (株) 峡南堂印刷所